

(社)日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 89 回 レベル 1PRA 分科会 議事録

1. 日時 第 89 回 : 2018 年 10 月 18 日 (木) 13:30~16:20

2. 場所 電力中央研究所大手町地区 711 会議室

3. 出席者

(出席委員) 高田主査, 桐本副主査, 橋本幹事, 佐藤 (吉), 高橋, 石田, 岩谷, 喜多,
谷川, 小谷, 佐藤 (輝), 黒岩, 谷口, 小森 (14 名)
(常時参加者) 野村, 友澤, 池田 (敦), 池田 (芳), 三浦, 塩田 (6 名)
(傍聴者) 佐藤 (遼) (1 名)

(敬称略)

4. 配布資料

- P4SC-89-1 第 88 回 L1PRA 分科会議事録 (案)
- P4SC-89-2 米国 JCNRM での状況報告
- P4SC-89-3-1 内の事象 L1PRA 標準 中間報告案
- P4SC-89-3-2 適用可能な手順及び実施例 議論検討用
- P4SC-89-3-3 内の事象 L1PRA 標準 英文版 (Draft for Review)

5. 議事内容

(1) 出席者/資料確認

委員 14 名が出席しており, 分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。
また, 配布された資料が確認された。

(2) 第 88 回議事録の確認

資料 P4SC-89-1 を用いて第 88 回分科会の議事録を確認した。コメントがあれば連絡いた
だくこととし, 特になければこのまま正式版とすることとなった。

(3) 米国 JCNRM での状況報告について

資料 P4SC-89-2 により, 米国ボルチモアで開催された ASME/ANS の合同委員会である JCNRM
への参加報告があり, 日本側からの PRA 標準策定状況・共通用語の定義・L1PRA 標準統合性
能化の紹介が報告された。米国では PRA 標準を巡って, 規制側・事業者側の意思疎通がよく
図られていることが伺えた。

また, 用語の定義に関しては米国側の関心も高く, 今後相互に情報交換・議論調整などを

行なっていく方向であることが紹介された。

(4) L1PRA 標準統合性能化検討

資料 P4SC-89-3-1 から資料 P4SC-89-3-3 により, L1PRA 標準統合性能化の検討状況について確認・議論を行なった。

- ・中間報告向け標準本体に関して, 前回分科会での議論内容を中心に確認した。
 - －品質確保標準や共通用語の定義が現在改定中であるが, 改定の状況をフォローし適宜反映していく。
 - －共通用語で定義されている「アンアベイラビリティ」の定義が, 米国 ASME/ANS 標準や今後の国内 ROP での定義と異なってくることが考えられ, 「アンリライアビリティ」の定義と合わせて, 共通用語の定義などと調整が必要。
 - －用語として「回復」「修復」の使い分けに関する経緯を資料として別途まとめておく。
 - －解説 7 では PWR と BWR の例が同じになったことから, 記述のあり方を調整していく。
 - －附属書 K において, 発生の頻度とイベントの確率の使い分けが不明瞭な箇所があることから, 確率に関する記載を修正し中間報告版にも反映する。

- ・技術レポートに関して, 今後の検討課題となる可能性のある要件を重点に, レポート構成全体をレビューした。
 - －表現として「適用可能な」は, 適用できる手法を限定するようにも受取れるため, 記載振りを検討していく。
 - －既存の解説・附属書において議論が陳腐化しているものなどは, 今回削除していくことなどを含め今後に扱いを検討していく。

(5) スケジュール, その他

次回分科会は 12 月 11 日 PM の予定。

以上